

経営比較分析表（令和3年度決算）

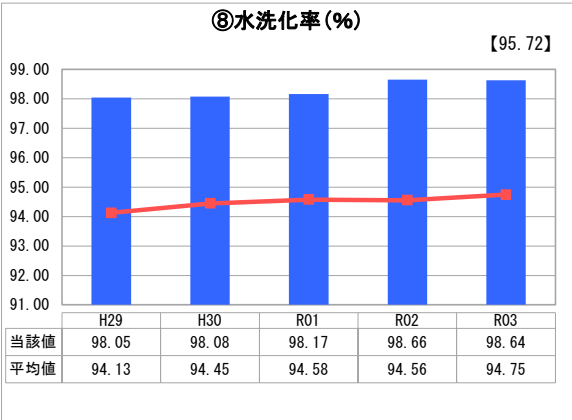
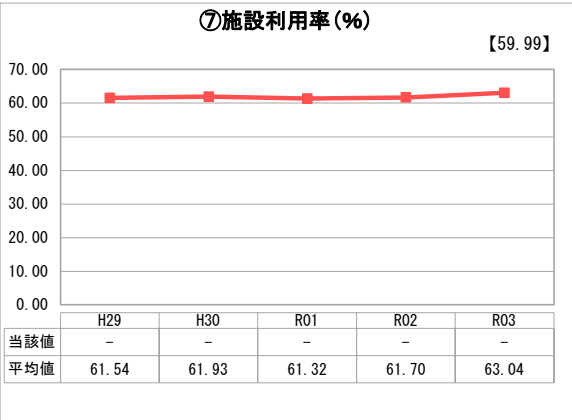
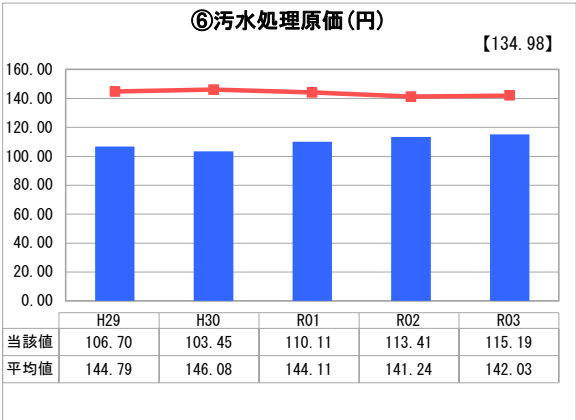
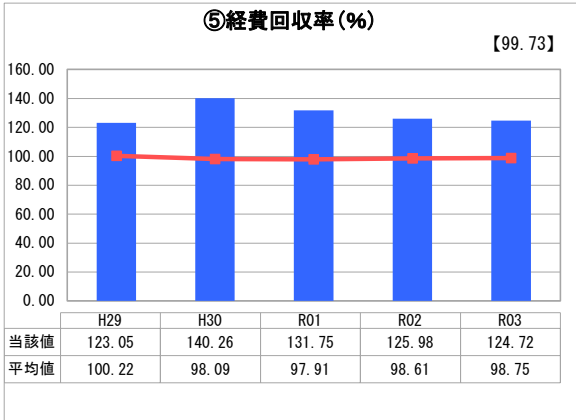
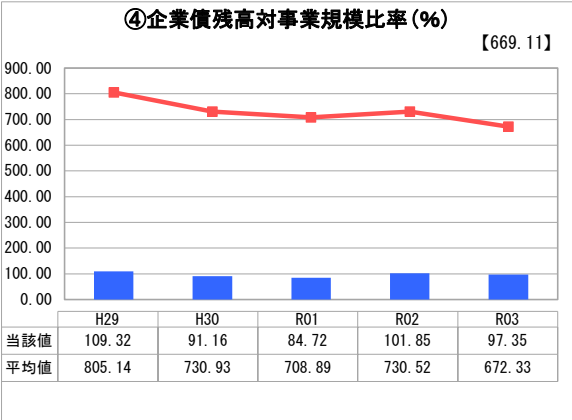
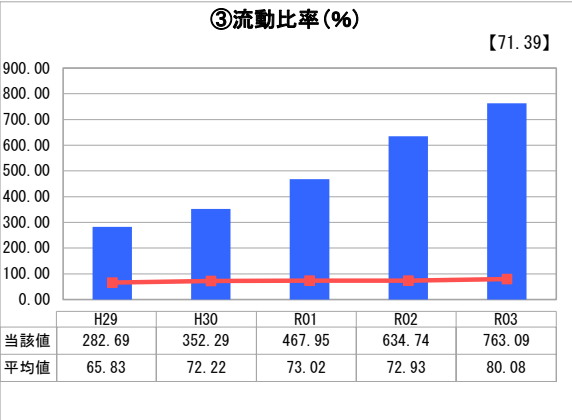
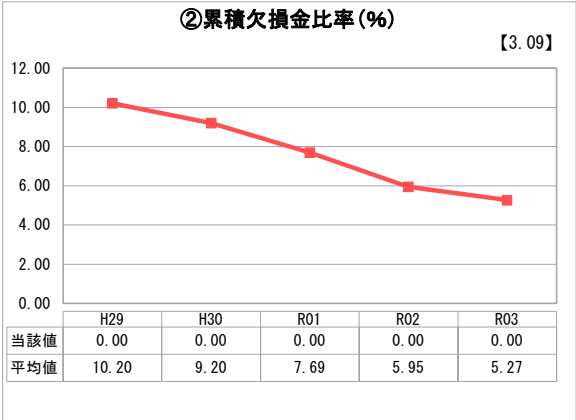
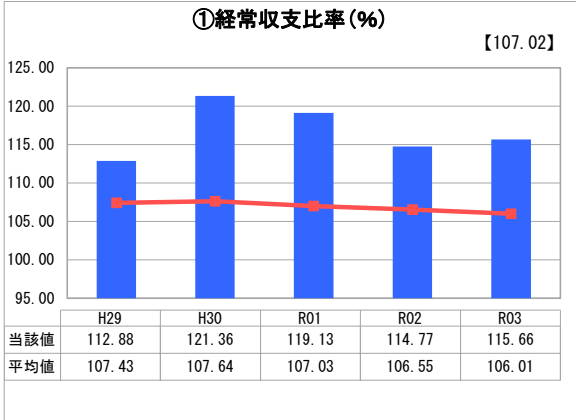
千葉県 佐倉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	92.44	92.06	81.32	2,472

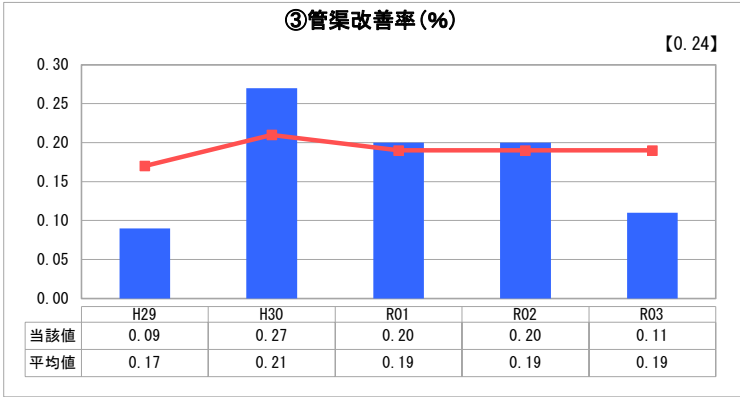
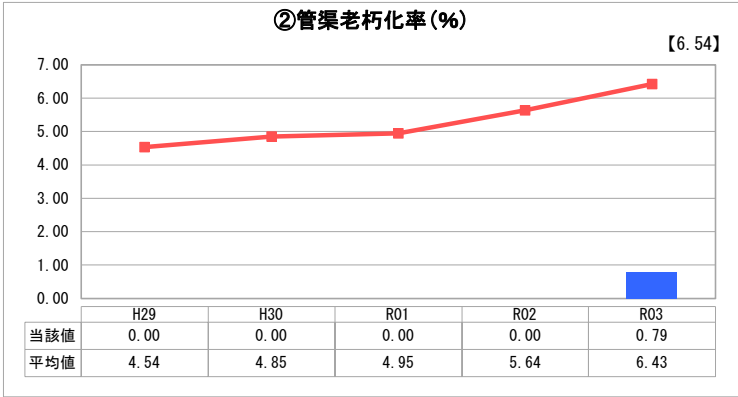
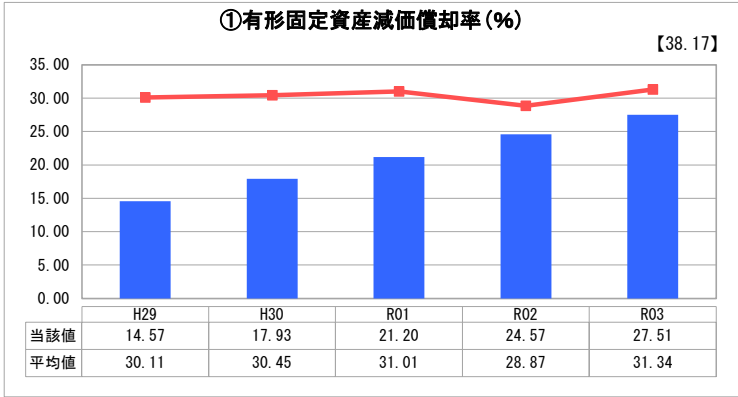
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,232	103.69	1,661.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
158,102	25.05	6,311.46

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

※下水道事業全体（公共＋特環）について記述しているため、公共・特環ごとの表・グラフとは内容が異なる部分があります。

①経常収支比率
100%を超え、全国平均、類似団体平均とともに上回っている。

②累積欠損比率
累積欠損金の発生はない。

③流動比率
順調に上昇しており、全国平均や類似団体平均と比べて高い水準にある。今後にかえる老朽化施設の更新工事に充てるため、現預金を蓄えておく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率
企業債残高がもともと少ないこともあり、全国平均、類似団体平均と比較し良好な数値を示している。

⑤経費回収率
印旛沼流域下水道の維持管理負担金や修繕費の増加により、前年度よりも減少している。

⑥汚水処理原価
印旛沼流域下水道の維持管理負担金や修繕費の増加により、前年度よりも増加している。

⑦施設利用率
当市は処理場を持たない。

⑧水洗化率
前年度からほぼ横ばいの状況。引き続き、佐倉市上下水道ビジョンに基づき、接続奨励などの実施により水洗化率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

※下水道事業全体（公共＋特環）について記述しているため、公共・特環ごとの表・グラフとは内容が異なる部分があります。

①有形固定資産減価償却率
全国平均、類似団体平均と比較して、当指標の数値は低いもののその差は縮まってきており、昭和40～50年代にかけ最も多くの下水道管を設置していることから、今後も増加が見込まれる。

②管渠老朽化率
法定耐用年数を超えた管渠が出始め、老朽化が進行している。

③管渠改善率
令和3年度は完了した更新工事が少なく、前年度比で当指標の数値が低下することとなったが、今後もストックマネジメント計画に基づき計画的に管渠の改善を行っていく。

全体総括

※下水道事業全体（公共＋特環）について記述しているため、公共・特環ごとの表・グラフとは内容が異なる部分があります。

前年比で経常収支比率及び経費回収率が若干悪化しているのは、主に印旛沼流域下水道の維持管理負担金や修繕費の増加によるものだが、100%超を維持しており、流動比率も年々上昇している。

現時点での財務指標は良好だが、管路等下水道施設の老朽化は徐々に進行していることから、楽観視することなく経営状況を注視し、定期的に事業量の見直しや使用料のあり方等についての検討も図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。